

令和8年3月27日

保護者の皆様

千葉市立坂月小学校
校長 小原 圭子

教育活動についてのアンケートのまとめ

保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、深く感謝申し上げます。先日は、教育活動についてのアンケートにご協力くださり、ありがとうございました。アンケートの結果について、以下のようにまとめました。今後、この結果やいただいたご意見を教育活動に活かしていきたいと思っております。これからもご協力よろしくお願いいたします。

【どのようなお子さんに育ててほしいですか】

1. 思いやり・対人関係

最も多くの保護者が挙げた項目です。他者の痛みを理解し、優しく接することを願う声がありました。

- ・思いやり・優しさ: 相手の気持ちを考える、人の痛みがわかる子、誰に対しても優しく接する
- ・感謝の心: 「ありがとう」を言う、感謝の気持ちを伝える
- ・他者の尊重: 人の悪口を言わない、他人の頑張りや良さを認める、自分も他人も大切にする

2. 挨拶・マナー・基本的生活習慣

社会生活の基本となる態度の育成を願う声がありました。

- ・挨拶・返事: しっかり挨拶をする、親に話しかけられたら返事をする
- ・礼儀・マナー: 嘘をつかない、時間を守る、ルールを守る、言葉遣いやマナーを身に付ける
- ・生活リズム: 早寝早起き、平日・休日を問わず規則正しいリズムで過ごす

3. 主体性・自立・挑戦

将来を見据え、自分で考え行動する力を育てたい想いが見られました。

- ・自立・自己決定: 自分で考えたり決めたりする、自分の意思表示をしっかりとる、将来一人で生きていく力をつける
- ・継続・挑戦: 最後までやり抜く、諦めずに挑戦する、いろいろなことを経験させる
- ・主体的な行動: 自分から進んで物事に取り組む、自分の態度に責任をもつ

4. 家庭環境・親の接し方

子供が安心して過ごせる場を提供し、一人の人間として向き合う温かさが伺えました。

- ・安心感・居心地: 家を一番安心できる場所にする、困った時にいつでも話せる雰囲気作り
- ・対話と見守り: 子どもの話を聴く、頭ごなしに否定せず意見を聞く、過干渉に気を付ける
- ・ありのままを認める: 本人らしさを忘れない、素直でのびのびと成長できる環境

5. その他

- ・金銭・環境意識: お金の大切さを伝える、動植物や地球環境に優しくする
- ・自己肯定感: 自分の生い立ちに自信を持てるように支える

【本校の教育活動について】

1. 学習・生活指導について

- ・個別対応への感謝: 少人数ならではの手厚い指導や、子供の特性に寄り添った対応に感謝する声が多くあります。
- ・学級運営への不安: 低学年や高学年の一部で「学級崩壊」を思わせる状況があったとの指摘があり、早期の状況把握と厳格かつ一貫性のある指導を求める意見があります。
- ・外国語対応: 日本語が母国語でない児童に対し、より個別的な日本語指導を希望する声があります。

- ・指導への疑問: プライバシーへの配慮や、特定の専科（音楽）の授業運営、過度なルール設定による学習機会の制限を懸念する意見が見られます。

2. 学校行事・運営について

- ・運動会の改善: 開催時期（寒さ対策で春開催への検討）や、予備日の設定方法（仕事との調整）への要望。

6年生の親子競技の中止や、表現運動後の挨拶の廃止について、思い出作りの観点から復活を強く望む声があります。

- ・伝統・文化活動: 「坂月っ子発表会」や地域と合同の「茶摘み」など、コロナ禍以前に行われていた行事の縮小・廃止を惜しむ声がありました。
- ・連絡の迅速化: 行事の日程などをより早く周知してほしい（仕事の都合をつけるため）との要望があります。

3. 環境・安全・その他

- ・施設修繕: 階段のタイルの剥がれによる怪我や、机・椅子のトゲなど、具体的な安全面での修繕要望が出ています。
- ・登校班: 高学年のリーダーシップ不足やセーフティウォッチャーの不在など、登校班が機能していない状況の改善を求める指摘があります。（※1）
- ・相談体制: 担任以外の先生（副担任など）に随時意見を伝えられる機会や、学校側への直接的な報告ルート拡充を望む声があります。
- ・健康管理: 水筒の保管場所（机の横の禁止）により、水分補給の頻度が減っていることを心配する意見があります。（※2）

4. 感謝のメッセージ

- ・教職員の日々の努力や、子供が楽しく学校に通えていることへの感謝、また育休代替の先生への高評価など、温かい応援の言葉も多数寄せられています。

子供から

【学校であった、うれしかったこと、楽しかったこと】

1. 運動・スポーツへの熱中

特に「なわとび」と「サッカー」の人气が際立っています。

- ・なわとび: 「200回跳べた」「前跳び30回」「記録会で優勝」など、個人の上達やチームでの成果を喜ぶ声が多く見られます。
- ・球技・遊び: サッカー、バスケットボール、鬼ごっこなど、休み時間や体育の時間に「みんなで」体を動かすことが大きな楽しみとなっています。

2. 特別な思い出（行事）

高学年と思われる回答では、移動教室や修学旅行が強く心に残っているようです。

- ・移動教室: ナイトハイク、オリエンテーリング、部屋で友達と怖い話をしたことなど、宿泊行事ならではの思い出が並びます。
- ・学校行事: 運動会での応援団長や優勝、クリスマス会やお楽しみ会といったイベントも高く支持されています。

3. 自己成長と達成感

学習面やスキルの習得において、具体的な成功体験が自信につながっている様子が伺えます。

- ・「書き初めて金賞」「テストで100点」といった評価への喜び。
- ・「図工でギターを作った」「台上前転ができた」「総合の発表がうまくいった」といった達成感。

【まとめ】

1 グラフより

1. 学習指導・意欲に関する考察

- 理解度の認識差（グラフ1）：児童の66%が「授業が分かりやすい」と回答し、教職員も100%（そう思う50%+少し50%）が配慮していると回答していますが、保護者で「お子さんは学習が分かりやすいと言っている」と回答したのは33%に留まります。

学校での「分かった」という実感が、家庭での会話や学習の様子として保護者に十分に伝わっていない、あるいは家庭学習において課題が顕在化している可能性があります。

- 自学自習の姿勢（グラフ2）：「自分から進んで勉強する」項目では、児童（44%）に対し保護者（47%）と、数値が概ね一致しています。教職員の工夫（88%が「少しあう」）が一定の成果を上げていると言えます。

2. 豊かな人間性と社会性

- 友達関係と対人能力（グラフ6）：児童の73%が「友達と仲良くしている」と感じており、保護者も63%が「よい友達関係をつくっている」と肯定的に捉えています。

<思いやりと公共心>（グラフ9、10）

- 児童は「思いやり（75%）」「公共心・約束（82%）」ともに非常に高い自己評価を示しています。
- 対して保護者の評価は「思いやり（44%）」「公共心（46%）」と、児童との間に30ポイント以上の開きがあります。

公共の場や家庭での振る舞いにおいて、保護者はより高い基準を求めている、あるいは学校内と学校外で児童の態度に差があることが推測されます。

3. 学校のサポート体制と信頼関係

- 相談のしやすさ（グラフ15）：児童の74%が「先生は悩みを聞いてくれる」と回答し、教職員も100%が対応に努めていると回答しています。
- 保護者の信頼（グラフ15、18）：「学校は適切に相談に応じている（56%）」「プライバシーを守っている（70%）」など、保護者の学校に対する基本的信頼感の高い水準にあります。

4. 安全管理と生活習慣

- 安全・処置（グラフ20）：「けがや事故への連絡・処置」については、保護者の67%、教職員の71%が「そう思う」と回答しており、緊急時の対応体制への評価は一致して高いです。
- 健康への意識（グラフ13）：児童の72%が体育や外遊びに積極的ですが、教職員側は「体力づくりの日常化」に対し、29%が「あまり思わない（あわない）」と回答しており、指導側の課題意識を改善する必要を感じました。

2 記述より

皆様から寄せられた「どのようなお子さんに育ててほしいか」という切実な願いを拝見し、改めて責任の重さを痛感しております。相手を思いやる心や、自立して挑戦する姿勢など、時代が変わっても変わることのない親心の深さを職員一同で共有いたしました。

一方で、子供たちの回答からは「跳び箱ができた」「友達とサッカーをした」といった日々の小さな成功体験や、宿泊行事などの特別な思い出が、大きな自信と喜びに繋がっている様子が鮮明に浮かび上がってきました。子供たちが実感している「できた!」という手応えを、私たちがいかに支え、伸ばしていくべきか、改めて指導のあり方を見直す指針となりました。

皆様からいただいた具体的なご指摘やご要望については、次年度に向けて以下の通り改善・検討を進めてまいります。

<学習・生活指導の充実>

学級運営に関するご不安や、指導の一貫性についてのご意見を真摯に受け止めております。個々の特性に応じたきめ細やかな対応と、誰もが安心して学べる集団作りの両立を目指し、組織的な指導体制を強化してまいります。

<学校行事と情報共有>

運動会の開催時期や内容、地域交流行事のあり方については、子供たちの思い出作りと持続可能な運営のバランスを考慮し、再検討を行ってまいります。また、お仕事等との調整がスムーズに進むよう、行事予定の早期周知や下校時刻の定期的なお知らせについても、より伝わりやすい方法を工夫いたします。

<安全な環境づくり>

校舎内の施設修繕や熱中症対策としての水分補給のルールなど、お子様の安全と健康に直結する課題については、速やかな現状把握と改善に努めます。

※1：登校班の体制は、現在は行っておりません。セーフティーウォッチャーさんの善意により、集合場所に時間までに集まった子と学校まで一緒に歩いてくださっている方面があります。セーフティーウォッチャーさんのいない通学路については、児童各自の判断による登下校になります。

※2：机の横に置くことによる、お子さんのケガや水筒の破損を予防するための処置でした。

【結びに】

「子供が楽しく学校に通えている」という温かい励ましのお言葉は、私たち教職員にとって何よりの原動力となっております。

今年度の歩みを振り返り、いただいたご意見を一つひとつ教育活動の改善に役立てることで、子供たちがよりのびのびと、自分らしく成長できる坂月小学校を築いてまいります。今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。